

第4 気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和7年1月15日（水）10時から11時40分まで

【場所】サンマリン気仙沼ホテル観洋

【委員からの主な意見】

（1）第6期みやぎ観光戦略プランの最終案

①全般

- 県内の大学で観光を学べる場があれば、その方々が戻ってきて観光に従事する流れもできるのではないかと。
- 気仙沼・本吉地域はこれまで震災前やコロナ前に戻るのには一番遅いような場所であった。宿泊者数の目標数値について、仙台圏域が伸びるのは予想できるが、当圏域などこの施策をやればここまで伸びるという、具体的な実感が持てるものが欲しい。
- 基本的に全体計画には賛成だが、地方の場合、人材育成や観光まちづくりに重きを置いた、地域の人が活躍できる場を作る戦略が必要である。具体的には、地域の情熱のある方が圏域のコーディネーター的なアドバイザーとなり、関係者と連携、伴走しながらいろいろ提案する。また、それを各圏域のアドバイザー同士が連携して全県下で色々なコンテンツ開発ができるとよい。

②数値目標

- 昨今の物価高騰、円安等の影響もある中、例えば観光消費額単価が達成したとしても宿泊数が変わらなければ、それで目標が達成したといえるか考える必要があり、各分野の進捗状況を確認した上で総括していただきたい。
- 消費額単価の算出について、今の物価高の傾向から見て、単純な積み上げ式の考え方でよいのか。
- 戦略3の中でソフト事業とハード事業を分けると、ハード事業の部分がわかりにくい。コストの問題はあると思うが、1つでも2つでも県は具体的にどの部分で支援していくか明確にすべき。

（2）圏域の施策の方向性及び取組

- 最近は繁忙期を避け、休暇をずらしてサーフィンを楽しむ方もおり、今後は県のプランなどに関する市町やイベント関係者と意見交換会を開き、予算の問題も含め、全体的に話し合う機会があると良いのではないかと。
- スポーツイベントのボランティアを募ってツアーを組んだところ、若い学生が初めて気仙沼に来てボランティアをしながらイベントを楽しむといったことがあった。今後もそういった仕掛けも必要だと思う。
- これからの観光戦略プランなので、圏域の素晴らしさや、現在の前向きな取組を数多く記載して欲しい。